

## 恵比寿と鯛

「海老で鯛を釣る」という意味ではないのですが、恵比寿が鯛を釣った絵です。恵比寿は障害児だった為、海に流されたという話があり、その希望という意味で大漁は嬉しい事です。鯛の生きている感じがうまく出せたと思います。



## 長野 赤沢森林鉄道

急流の上を走るトロッコ列車を描きたかったのですが、細かすぎて出来ませんでした。川の流れでうまくいくかどうかは白色の使い方にかかっています。水は一色ではありません。全体的に印象派風に複数の色を重ねていきました。



## 京都 祇園

黒色と白色が、がしっと家並みを支えていて伝統ある京都祇園の感じが出たと思います。石畳がその先にある車止めまで続いて遠近法が効き奥行きが出ました。傘が最初ぺちゃんこで不評でしたが何とかアクセントになっています。



## 苔 寺

絵に線を入れずに黄色、青色、そして紺色と重ねていきました。そのため、色の濃淡が面白く出ました。また自然な色合いになってとても気に入っています。樹々の太さの差、葉の緑色の濃さによって奥行きを出せてうれしいです。



## かめさん

「ひっくりかめさん」という HP を運営しています。わたしが人生で何度もひっくり返っているものだから、七転び八起きの精神でいけるよう願いを込めてキャラクターにしました。つぶらな眼が可愛いかなと、自画自賛しています。



## 萩の町並み

毛利輝元が萩城を築き、上級武士が住み、今にその風情を残しています。絵に線を使わないと心がけていたのですが、建築物を描く時はある程度必要なのでしょう。少し濃い目の色で枠を入れ、淡い感じを白系統で飾ってみました。



## 上高地河童橋

上高地といえば、このアングルの写真が多く使われています。線を描いてしまった未熟さが見て取れます。橋の左端の影はどう見ても矛盾しています。かといって影を右端まで続けると絵が分断されます。そこは眼をつぶって下さい。



## 花は一時、樹は一生

もう先が危ないという時に描いた絵です。すぐに散ってしまう花よりも毎年その花をつける樹に注目したいと思いました。目の前のことより、長い定規で見ていけば、悲しみも良い思い出になってしまうものです。人生の応援歌です。



## かき氷

暑い夏に涼しげな絵といえば、かき氷、金魚、風鈴……。食いしん坊ですから、かき氷を描いちゃいました。白の縁取りが涼しそうに気に入っています。元祖とか、本家とか意味のない宣伝文句は好きなのです。負けず嫌いなのかも。



## 北極熊の迷い

映画やニュースで度々、北極熊が氷の割れた極寒の海を泳いでいる姿を見るようになりました。いったい地球はどうなっていくのでしょうか。これは熊の問題ではなく、わたしたち人間の問題といえます。キーマンはわたしたちです。



## 陽に向かい笑う

いつも向日葵は太陽の方を向いています。人生は明るい面ばかりではありません。夜のような時もあり、泣き笑いの連続です。でも、できるなら、日の方を向いていたいのです。そうすればきっといつもその周りには微笑みがあります。



## 田舎の秋

## イタリアの風景

## 伊豆下田白浜

## 京都嵐山

日本の原風景は、農家に田んぼ、そこに小川が流れて、遠くには山々が連なり、春の芽吹き、夏の深緑、秋の紅葉、冬の雪と、色彩豊かに映ろう変化が美しいです。そこには暖かい人間関係があり、皆で協力する精神がありました。



地中海の富を集めて繁栄した断崖の街。ローマ・カトリックの強力な影響力の中、でもまだ地元の有力量者が城を構え、独自の文化を守りさらに繁栄させようとしています。人々の活気ある声が聞えてきそうな元気な絵になりました。



伊豆下田の海岸は白砂がとても綺麗です。その中を裸足で歩くと、その抵抗が心地よく感じます。木の柵が砂浜を分けていて、アクセントになっています。それも遠近感を出すのに一役買っていて、広い空間を収める事が出来ました。



渡月橋の辺は観光地でよく写真が撮られます。京都の夏は殊に暑く、水の輝きはうれしいものです。川の流れる表現が難しく、濃くなりすぎた感があります。本当に水は様々な色を映し出しています。それ故に川面はむずかしいです。

